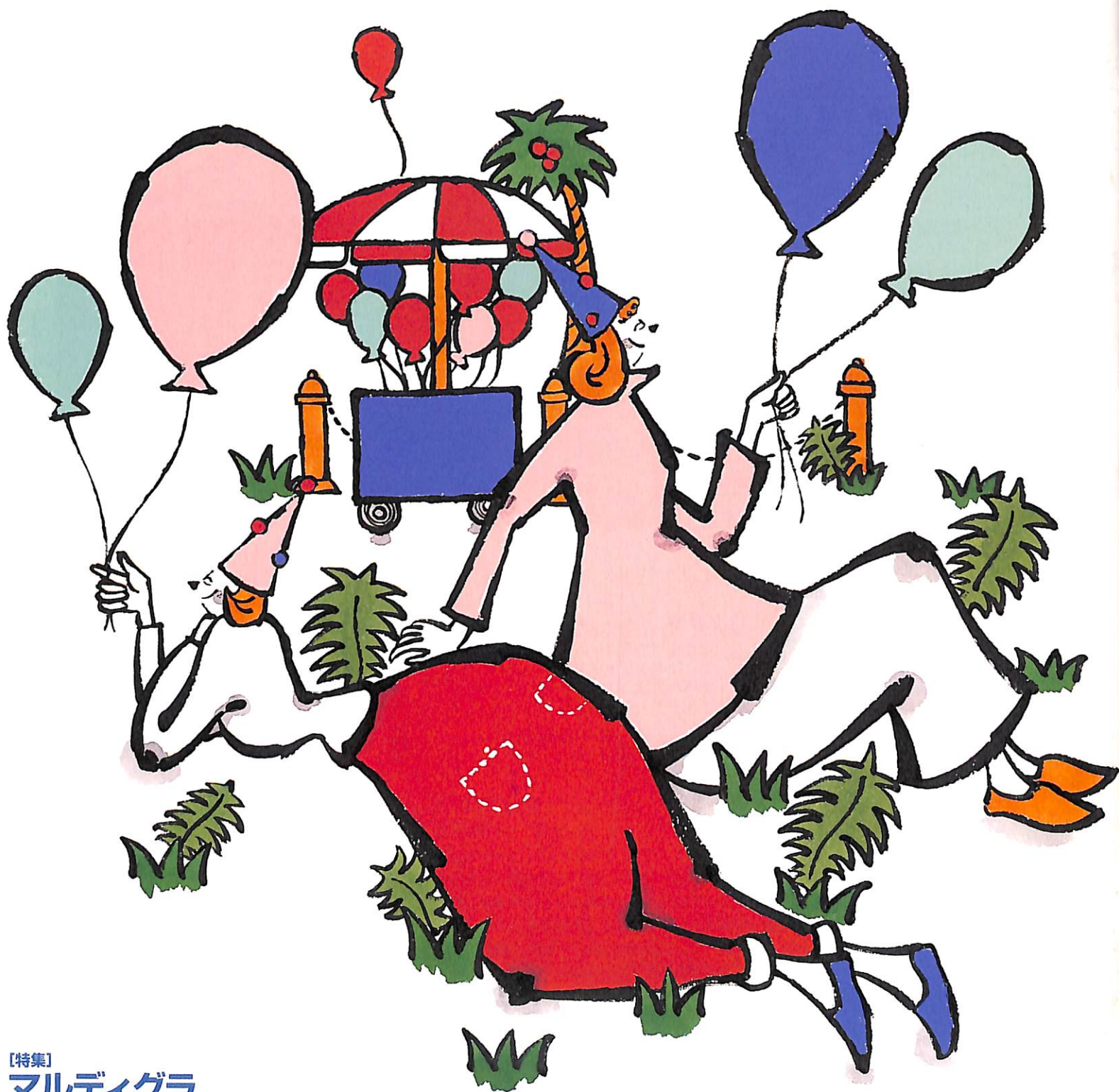




【特集】

マルディグラ

熱狂・ニューオリンズ
クレオール的情熱が生んだ
全米最大のカーニバル

town navigation

クルマで行く旅

宮崎、日南。

tomorrow interview

高田延彦



街を練り歩く仮装行列

tomorrow
my
favorite
journey
No. 2

写真=伊奈英次
文=編集部

マルディグラ

熱狂・ニューオーリンズ

ニューオーリンズ。ミシシッピデルタの河口に位置する、「クレセント・シティ（三日月の街）」。18世紀初期、カリブ海交易の拠点としてフランス人入植者によって築かれたこの港街は、クレオールと呼ばれる独特の混血文化に彩られている。マルディグラは、クレオールの情熱が生んだ全米最大のカーニバルである。その規模は世界最大といわれるリオのカーニバルと並び称されるほどだ。街は全米からの見物客であふれ、年に一度の最高の盛り上がりを見せる。



華麗なる山車と 仮装の一大スペクタクル

マルディグラ最大の見物がストリート・パレード。その数は実に70以上にもおよび、昼となく夜となく、およそ2週間にわたって街中の主なストリートを通り歩く。その主役は、巨大な張り子の山車と、マルディグラを象徴するマスク（仮装者）たち。華麗なるスペクタクルに、人々は熱狂して飽くことを知らない。



山車のテーマはニューオリンズ料理。マスクが投げているのはビーズのネックレス



テーマはバーボン・ストリートのナイトクラブ



ズーラーのクイーン



人気パレード、ズーラーのキング

マルディグラは早春のニューオリンズで開かれる
全米最大のカーニバルだ。日程は年によって異
なり、マルディグラ・デーあるいはファット・チ
ューズデーと呼ばれるカーニバル最終
日は毎年、2月3日から3月9日の
いずれかの火曜日に設定される。

Mardi grasはフランス語で、直訳すれ
ば「脂った火曜日」。つまり、「謝肉祭最
後の火曜日」という意味。イースター
までのカトリックの懺悔、断食の期間
が「四旬節」。その前に行われる祝祭が
「謝肉祭」だから、イースターから46
日(40日の四旬節と6日間の日曜日)
を差し引いた日が、マルディグラ・デ
ーになる。さらにこれに先立つ数週間
がニューオリンズのカーニバル・シー
ズンだ。

謝肉祭の風習を新大陸にもたら
したのは、かつてこの地を支配したフ
ランス人植民者たち。仮面劇を催し、
歓楽や飲食にふけるというこのなんと
も享乐的な祝祭は、クレオールと呼ば
れる彼らの子孫や、彼らと先住民、黒
人との混血たちに受け継がれた。陽気
で情熱的な彼らは仮面舞踏会や仮装
パレードを盛んに催した。これがマル
ディグラの原形となる。

1850年代には、パレードと舞踏会
を主催する最初の公式クラブが発足。マルディ
グラは組織的な近代カーニバルとして発展して
いく。

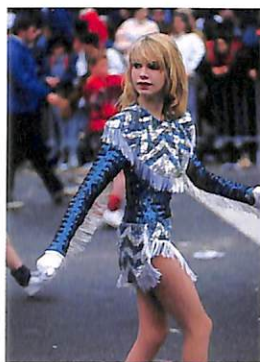
現在のマルディグラの中心はやはり仮装パレ
ードと仮面舞踏会。なかでも圧巻は、大がかりな
ストリート・パレードだ。パレードを行う地元
のクラブは70を超え、昼夜を問わず、数週間にわ
たって市内の主なストリートを練り歩くのだ。

マルディグラ・デーの 人気者、ズールー

カーニバルの最終日、マルディグラ・デーは、2週間におよぶカーニバルのフィナーレである。
この日、市内一の大通り、キャナル・ストリートに登場するのが、ズールー。
アフリカのズールー族をモチーフにしたパレードは、地元ニューオーリンズに最も愛されてきた。



ズールーは黒い肌をさらに真っ黒に塗っている



チアガールもパレードに欠かせない



ビーズ投げはエサをねだる雛鳥を連想させる



ズールーはみな陽気で無邪気だ

歴史、童話、伝説、神話、娯楽ものなど、仮装
のテーマはさまざま。テーマに合った仮装をした
マスカー(仮装者)、キングとクイーン、山車、マ
ーチングバンド、ダンスチームなどでパレードは
構成される。大きなクラブになると総勢300
0人を超える長い長いパレードになるとい
う。パレードの目玉は、巨大な張子の山車。カラ
フルにペイントされた人や動物のハリボテが、ピ
ルの谷間からヌワッと現れ出てくると、さすがに
びっくり。またそれを引っばっているのが農耕用
のトラクターだったりするから、なんともアメリ
カっぽい。

仮装するのはパレードのメンバーだけではな
い。地元の人や観光客もにわかマスカーになっ
て、マルディグラに花を添える。なんともかわいら
しい(?)ウサギさんや、ちよつとエッチなもの、
ほとんど理解不能なヘンテコ仮装…。だれより
もマスカー自身が楽しんでいるようにも見える。
観客はストリートや、あるいは特設の観客席
やピルのペランダを陣取って、のんびりとパレ
ードを待つ。まだ車や路面電車が走っている横で、
椅子に寝そべってビール片手に日光浴、という
姿も。が、パレードがやってきたとたん、様相は
一変する。

マルディグラ恒例の「ビーズ投げ」。山車に乗
ったマスカーたちがビーズのネックレスを次々に



壮年のウサギさんグループ



紫、緑、金（黄）はマルディグラの公式カラー



古代ローマのカップル



フレンチ・クォーターのスーパー・ショップのウインド



バーボン・ストリートを中心に
ビーズ投げは夜通し続く



常に走り回っていた人



ストロベリー・ダイキリ



マルディグラの象徴 マスク



インディアン



多頭の怪物



ビーズのマスク

愛すべき 街の道化師たち

かつて、ネックレスをねだって派手なパフォーマンスをする男性あり、服をまくし上げてバストを見せる女性あり。これもまた、マルディグラというべきか。

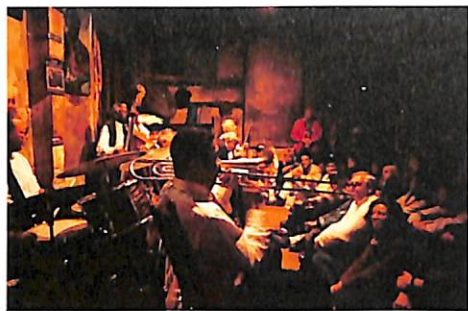
こうした乱痴気騒ぎに眉をひそめるニューオリニアンも少なくない。またあまりにカーニバルが見世物化し、本来の宗教的意味合いを失ったという批判もある。しかしそれでも、マルディグラはニューオリニアンやアメリカ人を魅了しつづけるのである。

生粋のニューオリニアンでシンガー・ソングライター／プロデューサー、A・J・ローリアの歌にこんな一節がある。

「People goin' crazy in Mardi Gras tradition / The annual audition to be yourself / ... Each day a debut for a king or a queen / ... Ain't nothin' like carnival to New Orleanians / ... Mad, mad Marti Gras! AIN'T NOTHIN' LIKE IT (MAD, MAD MARDI GRAS)」

カーニバル、それは自分自身になるためのオーディションであり、毎日がキングやクイーンへのデビューなのだとは歌う。老いも若きも男も女も、思い思いに仮装し、自分らしくなるための自由の祭り。

マルディグラ、それはまさしく「Greatest Free Show on Earth」。



ブリザベーション・ホール（セントピーター・ストリート）。ペテラン・ジャズメンによる古きよきニューオリンズ・ジャズの再現。



ジャクソン広場のブルースバンド



シンガー・ソング・ライター／プロデューサー、A・J・ローリアはマルディグラへの思いを気さくに語ってくれた。彼はニューオリンズR&Bシーンの一端を担う存在だ

観光客が集まるマルディグラの期間は、地元の名ミュージシャンのライブが目白押しだ。ジャズからリズム＆ブルース、ケイジャンまで、異なる音楽が一堂に集まるのもニューオリンズならではの魅力。見逃せない。

カーニバル・ナイトは ライブに酔う

ニューオリンズは音楽の街。フレンチ・クォーターは、ドアや窓を開け放した店々から流れる音楽でいつも賑やかだ。そしてストリート・ミュージシャンたち。これらのリズムが19世紀の街並みと融け合って、実に心地よい。

さまざまな人種と文化が混在した港街ニューオリンズは、混血音楽の宝庫だ。ジャズはこうしたフレンチ・クォーターの雑踏から生まれた。初期のジャズは、この地特有の葬式のパレードで演奏されるブラスバンドの形式に、即興演奏を取り入れたものだった。それを担ったのはクレオールと呼ばれるフランス人と黒人の混血たち。かつては身分を保証され、ヨーロッパ音楽を身につけた者たちである。しかし奴隷解放後その地位は転落し、ストーリーヴィルと呼ばれる赤線地区のクラブなどで演奏して生計を立てたのである。

また、カーニバルやパーティを好む土地柄は、陽気なダンス・ミュージックを生み出した。マル



伝統的マーチング・ブラスバンドのスタイルに強烈なビートを取り入れた、ダーティ・ダズン・ブラスバンド。ハウス・オブ・ブルース（ディケーター・ストリート）



メゾン・バーボン（バーボン・ストリート）。気軽に一杯やりながらニューオリンズ・ジャズが楽しめる

ディグラのテーマソングの一つ、「マルディグラ・イン・ニューオリンズ」は、リズム＆ブルースに、カリブ海のラテンのリズムや、カーニバルのマーチング・バンドのリズムが混じったニューオリンズ独特のスタイル。これはニューオリンズR&Bと呼ばれ、今も「ネヴィル・ブラザーズ」をはじめ世界的に活躍するミュージシャンは数多い。

さらにユニークなのが、ケイジャンと呼ばれる音楽だ。ケイジャンとは、もとはカナダ東南部に入植し、のちにイギリス人に追われ、ルイジアナに住みついたフランス人を指す。今なお自身の伝統的文化を守って生活する彼らが生み出した音楽だ。アコーディオンやフィドル（ヴァイオリン）を中心に、フランス語で歌われる。哀しくも楽しいダンス・ミュージックである。

毎年4月には、これらアメリカ音楽からカリブ音楽、アフリカ音楽などを一堂に集めた「ニューオリンズ・ジャズ&ヘリテイジ・フェスティバル」も開かれている。



ルイジアナ・スーパードーム
1975年完成。10万人近くを収容できる世界最大のドーム型多目的スタジアム。毎年正月にカレッジ・フットボールの祭典、シュガー・ボウルが開かれる。館内見学も可能。キャナル・ストリートからバス10分。



オーデュボン公園
セント・チャールズ・アヴェニューからミシシッピ河岸に広がる。園内にはアメリカ5大動物園の一つ、オーデュボン動物園がある。広々とした敷地内には亜熱帯、熱帯の動物1500以上がゆったりと生活。キャナル・ストリートから市電20分。



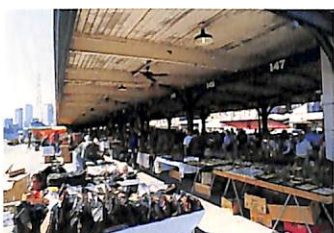
ニューオーリンズ美術館
市立公園内。フランス印象派の画家ドガがこの地で描いた肖像画をはじめ、ヨーロッパ、アメリカ、中南米の美術・工芸品を豊富に収蔵。広大な公園内には自然のバイユー（自然水路）や巨大なオークが散在し、植物園、遊園地やスポーツ施設も充実。市民の恰好の憩いの場となっている。キャナル・ストリートから車で15分。



ミシシッピ川
南部の魅力をもっと知りたい人は、ミシシッピ沿いのリバーロードを車でさかのぼってみよう。川の周囲には畑、バイユー、スワンプが広がり、邸内見学可能なプランテーション・ホームが点在している。市内から車で40分～1時間半。



アメリカ水族館
フレンチ・クォーター南東端にある全米有数の大水族館。南北アメリカ大陸をテーマに、カリブのサンゴ礁、アマゾン流域、ミシシッピ流域、メキシコ湾の4ゾーンに分割。魚類、爬虫類、両生類、鳥類など、400種7500を収容。



フレンチ・マーケット
ジャクソン広場から徒歩1分、川沿いに細長くのびるマーケット。200年の歴史をもつ。新鮮な野菜、フルーツ、魚介から雑貨、土産物までが所狭しと並び、値段も安め。観光客のみならず地元民にも人気がある。



セント・ルイス墓地
見慣れぬ背の高い石造りの墓がずらりと並び、これは土地が低く、洪水の多いニューオーリンズ独特の墓だ。第1墓地はジャズ発祥の地といわれるルイ・アームストロング公園（コンゴ広場）の隣、第3墓地が市立公園近くにある。ただし最近では犯罪が多く発生しているので、一人では行かないこと。



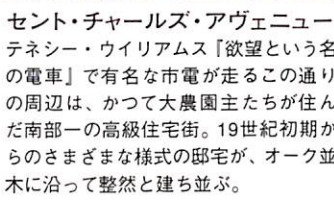
ボンチャートレイク湖
市の北に広がる東西64km、南北40kmの塩水湖。湖のど真ん中を真っすぐに貫く橋の長さは、なんと39km。文句なく世界最長である。ただし湖の深さは2～3mしかない。途中Uターンも可。キャナル・ストリートから車で20分。



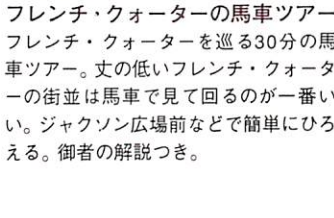
ジャズ博物館（旧合衆国造幣局）
1835年建造。1920年まで造幣局だった。ルイ・アームストロング愛用のコルネットをはじめ、ジャズの誕生と歴史を物語る貴重な資料が展示されている。併設のマルディグラ博物館にはカーニバルの山車、衣装、仮面などを展示。



セント・チャールズ・アヴェニュー
テネシー・ウィリアムズ『欲望という名の電車』で有名な市電が走るこの通りの周辺は、かつて大農園主たちが住んだ南部の高級住宅街。19世紀初期からのさまざまな様式の邸宅が、オーク並木に沿って整然と建ち並び。



セント・ルイス大聖堂
ジャクソン広場正面。現存するアメリカ最古の大聖堂。18世紀初期に創立、大火で焼失し、1794年再建。現在の建物は1851年建造のもの。右にはプレズビテア（神父の宿舎）、左にはカビルド（スペイン植民地政府）があり、現在はルイジアナ州立博物館となっている。



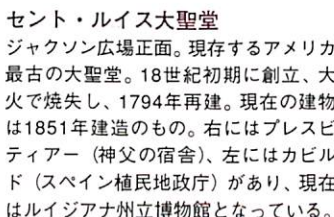
フレンチ・クォーターの馬車ツアー
フレンチ・クォーターを巡る30分の馬車ツアー。丈の低いフレンチ・クォーターの街並は馬車を見て回るのが一番いい。ジャクソン広場前などで簡単にひろえる。御者の解説つき。



バーボン・ストリート
言わずと知れたフレンチ・クォーター随一の歓楽街。バーやレストラン、ライブハウス、ナイトクラブなどが軒をつらね、そのほとんどは昼も夜もドアを開け放したまま。通りには一日中音楽が流れ、人通りが絶えない。



ジャクソン広場
フレンチ・クォーターの中心的広場。1721年にフランス陸軍の関兵場として設立。中央に1815年のニューオーリンズ戦争の英雄、第7代大統領アンドリュース・ジャクソンの騎馬像がある。ジャズ演奏や大道芸人、絵描きなどで終日賑わう。



カフェ・デュ・モンドのベニエ&カフェオレ
ジャクソン広場の斜め向かい、1860年創業の老舗のカフェ。名物のベニエ（四角いドーナツ）とチコリ入りのカフェオレは、地元民と観光客からこよなく愛されてきた。しかもベニエ（3個）とカフェオレでたったの\$2.00。24時間営業。



クレオール/ケイジャン料理
有名なガンボ、ジャンバラヤをはじめ、いずれも香辛料が決め手のスパイシな味わい。エビ、ザリガニ、カキ、カニ、ナマズなど新鮮な魚介をふんだんに使い、またほとんどがコメ料理なのも日本人にはうれしい。美味！

フレンチ・クォーター近郊 One day トリップ Exploring New Orleans

見どころが随所にあるフレンチ・クォーターは、ぶらぶら歩きながら街そのものの雰囲気存分に味わいたい。その他の主な観光スポットも市電やバスを使えばフレンチ・クォーターから20分たらずの範囲にある。

●フレンチ・クォーター・マップ



カフェ・デュ・モンドのベニエ&カフェオレ
ジャクソン広場の斜め向かい、1860年創業の老舗のカフェ。名物のベニエ（四角いドーナツ）とチコリ入りのカフェオレは、地元民と観光客からこよなく愛されてきた。しかもベニエ（3個）とカフェオレでたったの\$2.00。24時間営業。

LIFE DESK SERVICE INFORMATION

LIFE DESKは、ライフ国際カード会員の皆様へ、お気軽にお立ち寄りいただける海外の窓口です。日本語を話せるスタッフが皆様のお問い合わせにお答えするほか、各種サービスの御案内もしております。ご出発前、現地問わず気軽にご連絡ください。なお、ニューヨーク方面への旅行の際には、LIFE DESKへお立ち寄りください。

■LIFE DESK ニューヨーク

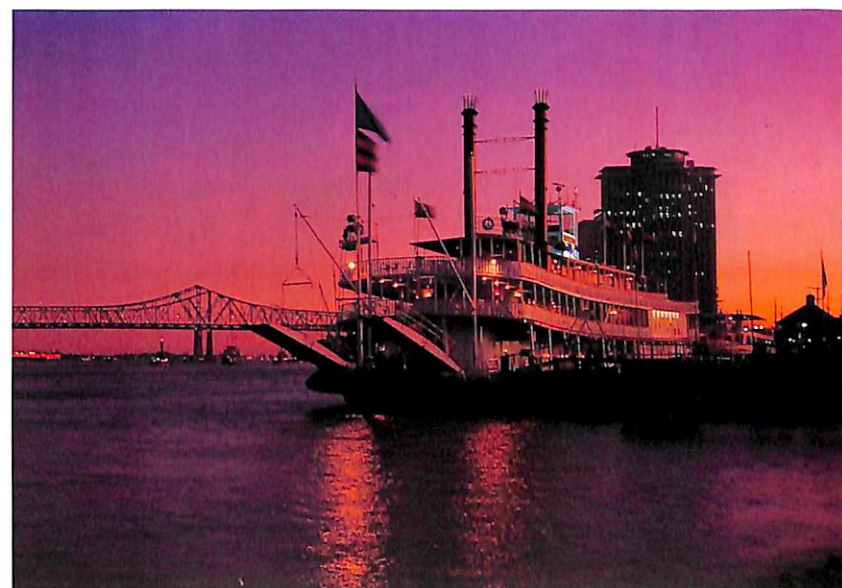
TEL:1-800-366-5430（トール・フリー）
712 Fifth Avenue, 44th Floor, New York.
電話受付時間 24時間
レセプションカウンター営業時間 9:00～17:00（土・日・祭日休み）
※トール・フリーダイヤル（通話料金無料）は、各国とも国内でのみご利用いただけます。

ミシシッピ・デルタの蛇行に沿ってつくられたニューオーリンズは、その形状から「クレセント・シティ（三日月の街）」と呼ばれたりもする。ミシシッピと深く結びつき、発展した港街がニューオーリンズだ。

この地を最初に「発見」したのは、フランス人探検家ラサール。彼はセントローレンス川から五大湖に入り、さらに支流を伝ってミシシッピを下り、1682年、メキシコ湾に到達した。そしてこれらミシシッピ帯の広大な地域を国王ルイにちなんでルイジアナと名付け、フランスの植民地とした。

1718年には同じく探検家ビエンヴィルがミシシッピ河口から110マイルさかのぼった地点に交易所を設け、時の摂政オールラン公フィリップにちなんでヌーヴェル・オルレアンと名付ける。ニューオーリンズの誕生だ。以後この地は、ミシシッピの水運を通じて植民地全域とカリブ海とをつなぐ、政治経済の重要な拠点となっていく。

ミシシッピ、ニューオーリンズ、 フレンチ・クォーター



ミシシッピのたそがれ。フレンチ・クォーターの河岸、ムーン・ウォークにて

フレンチ・クォーターを築いたのは、フランス人入植者である。その後1763年から1800年の間、フランスはルイジアナ植民地を失い、スペインの統治下に置かれる。この時期に2度の大火でフレンチ・クォーターの建物の多くが焼失。今ではフレンチ・クォーターの名物となっている通りに張り出したバルコニーや、バルコニーを飾る精巧なアイアンワーク、パティオ（中庭）は、だからスペイン人によってもたらされたものであり、それがまたいつそうフレンチ・クォーターを特徴のある街にしている。

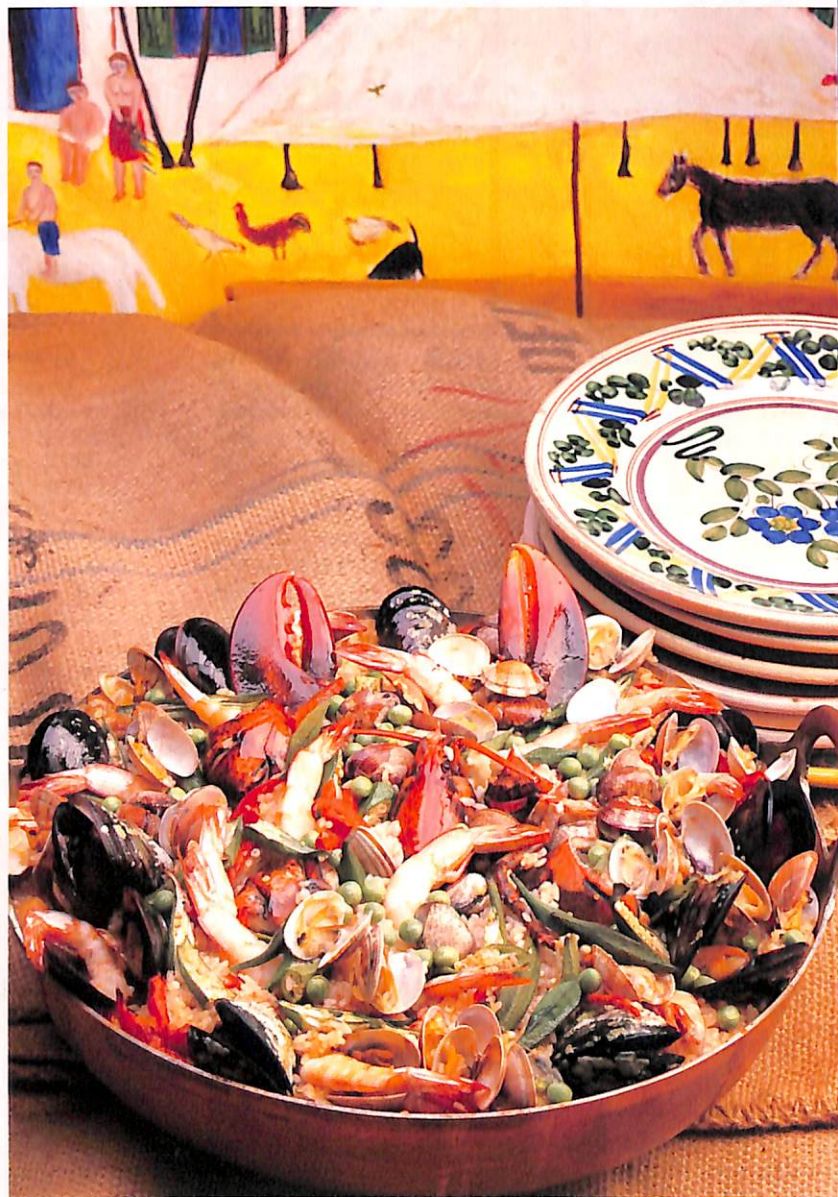
1803年、アメリカ合衆国がナポレオンからルイジアナを買収。その後の数十年は、ニューオーリンズとミシシッピが最も繁栄をきわめた時期である。ミシシッピはプランテーションで生産される綿花などを運ぶ大動脈となり、華麗な外輪汽船が盛んに往き来した。しかしその繁栄も、南北戦争の敗退による南部の衰退とともに終わりを告げたのである。

クレオール の 味覚
(ニューオリンズ)

アメリカという国は、変である。どこが変なのかということを書けば、それだけで一編の小説ができるかもしれない。たとえばアメリカ国内を車で走っていると、ときに得体の知れないものに会おう。それらはアフリカのサバンナで会おうさまざまな動物たちとはまた違った、想像を越えたものである。同じような印象はアメリカ料理にも大いに言える。彼らの母国であるはずのヨーロッパの伝統はどこかへ忘れてしまったような、おかしいものに出会うからだ。それぞれの国で持ち続けていた伝統は、この国では他の国の文化とぶつかり、壊れ、歪められて別の料理のようになってしまう。たとえば、スパゲッティ。あのアル・デンテと呼ばれているスパゲッティの茹で方はないといっている。アメリカ風のクタクタのスパゲッティ。しかしイタリア系アメリカ人はそれを平然と食べているのだ。アメリカの伝統やマナーは、働け働けの日常生活の中で生まれたもので、とかく合理的にすませようというきらいがある。食事也不例外ではない。その結果、一皿にすべてを入れてしまえ、という発想も生まれる。スパゲッティやサラダでさえアメリカでは立派な一品料理の資格をもってしまふ。とにかくアメリカ料理はそんな混沌と混血の料理だ。そんな混血料理も、時には大成功をおさめることもある。その典型がクレオール料理。クレオール料理とは、フランス、スペイン、アングロ・サクソン、黒人、インディアンなどの料理が混ざり合ったもの。そして、その複雑で豊かなクレオール料理のなかでも、なんとも見事なものがジャンバラヤである。ジャンバラヤは、スペインのパエリアから生まれたのだが、これは1768年から1803年まで、スペイン人に統治されていたことから、明らかである。クレオール料理を作るには、まず小麦粉とバターを使ったブラウン・ルーを作ることから始まる。このジャンバラヤも、その例外ではない。

大きな鍋に小麦粉(大匙1杯)を入れ、バター(50g)とともにじっくりと炒めてブラウン・ルーを作る。このルーにベーコン(みじん切り、300g)、にんにく(みじん切り、2個)、たまねぎ(みじん切り、2個)、えび(500g)を加え、オリーブ・オイル(大匙4杯)で炒める。ここに洗って水気を切った米(4カップ)を加え炒め、スープストック(6カップ)を注ぎ入れる。15分ほど煮たら、トマトの水煮(600g)を加え、煮る。ここに、ピーマン(ざく切り、4個)、食べやすい大きさに切った白身魚(300g)、アサリ、ムール貝を適量、オマール(1尾)を入れ、塩、こしょう、タイム(小匙1杯)で味をつける。これをあらかじめ熱くしておいたオーブンに30分ほど入れる。

西川 治
旅する
胃袋 No.2



文●写真●料理●西川 治
にしかわおきむ 写真家・文筆家
1940年生まれ 世界数十か国を旅して遊びと味に精通。ダイナミックな料理人としても評判が高い。著書多数。

フレンチ・クォーター
ショッピング・ガイド

各種スーパーニールから食料品、レコード、貴金属、美術品、アンティーク家具まで、フレンチ・クォーターのショッピングの楽しみ方はさまざま。ここでは手頃な楽しめるマルディグラ・グッズとクッキング・グッズを中心に紹介しよう。

マルディグラ・グッズ

数ある土産物の中でも目を引くのが、きらびやかなカーニバル・グッズ。マルディグラ期間ならずとも年中売られている。

- 1: マルディグラの象徴ともいえるマスク。\$12.00-
- 2: 羽根のマスク。各\$3.99
- 3: マスクをかたどったブローチ。\$34.00-/ \$26.00-
- 4: マスク。\$6.00-
- 5: マスク(上製)。\$50.00-
- 6: マスク。\$5.00-
- 7: 仮装人形。\$10.99-
- 8: マルディグラ・Tシャツ。白地 \$9.76-/ \$28.00-
- 9: パレードで投げられるビーズのネックレス、コップ、アルミのコイン。ネック



クレオール/ケイジャン
クッキング・グッズ

ニューオリンズ料理の味が忘れられない人は多いはずだ。インスタント・バックで手軽に楽しむよし、スパイスを取り揃えて本格派に挑戦するもよし。

- 10: 右、ケイジャン料理の素。各\$1.79-/上、ケイジャン・ソース。\$5.95-/下、レッド・ビーンズ&ライスが入った鍋敷き。レシピ付。\$7.95-
- 11: ソルト&ペッパー入れ。セットで\$13.90-



ツアーで楽しむ
アメリカ

観光スポットが
盛りだくさん
『アメリカ東部と
ニューオリンズの旅』

植民地時代のヨーロッパの雰囲気を残すニューオーリンズを中心に、ニューヨーク、ナイアガラの滝、ボストン、ワシントンを通る10日間のツアーがあります。宿泊は、ニューオーリンズがロイヤルソネスタ(バーボンストリートの中央にあって、ナイトライフをエンジョイするには絶好のロケーション)など、ニューヨークがウォールドファストリアなど、ボストンがボストニアンなど、ワシントンがANAなど。料金、出発日は以下の通り。
6月3日(金)、12日(日)は574,000円
6月19日(日)、24日(金)は591,000円
最少催行人員10名。(7月以降もございます)

○上記ツアーのほかにも沢山のツアーをご用意しております。日程、料金、出発日など詳しくは下記までお問い合わせください。また、本誌掲載込みハガキでもパンフレット(無料)のご請求ができますのでご利用ください。

●お問い合わせ先
〒101 東京都千代田区神田駿河台4-3 新お茶の水ビル18F
運輸大臣登録一般旅行代理店第3893号
株式会社ライフ トラベルショップお茶の水
TEL: 03-3233-9119